

あなたとJAをむすぶ情報誌

なかしべつ

1999

1

月

No.289

あけまして
おめでとーごさいます



JA NAKASHIBETU

賀正



輝く新春の内に幸福を心より
祈り申上げます

平成十一年乙丑



中標津町農業協同組合

代表理事組合長	三友盛行
副組合長理事	高橋勝義
管理購買委員長理事	佐々木政行
営農委員長理事	上村重光
生産委員長理事	土井上信一
理事	中浦健雄
理事	佐藤藤擴
理事	中司哲雄
理事	川村清身
理事	中村敏夫
理事	長正路清
代表監事	邊辺善行
代表監事	藤井美智夫
監事	土井上昭男

21世紀は農業の時代

中標津町農業協同組合

代表理事組合長 三友 盛行



新年明けましておめでとう、ございます。

昨年は組合員の皆様のご理解とご協力により、農協運営は計画に沿って順調に事業推進が出来、お礼申し上げます。

本年も宜しくお願い致します。

昨年は順調な春耕期、冷涼な夏、大雨、台風の影響と天候不順な年でしたが、皆さんの努力により概ね平年作を確保することが出来ました。

酪農では初生トク、廃用牛の価格の暴落により個体収入部門が激減しましたが、百六管台の乳量の高い伸びに支えられて、酪農の経営収支は前年を上回りました。

畑作においては、豊作を期待される坪堀り結果が出る一方、大雨、台風により減収もあり、期待と心配の交差する様な秋でしたが、ほぼ平年作を維持出来ました。

国内経済総不況といわれる状況の中では、根室管内農業は総じて良い年であり、改めて農業の強さ、良さを実感しています。これらの事は、ひとえに組合員、家族の皆さんの努力の賜物であり、心から敬意を表すとともに感謝致します。

十月十日に新築オープン致しましたAコープ店「あるる」は組合員、準組合員、一般消費者方、多数の利便により計画を上回る営業を行っております。また、新しい町の中核

として街づくりに大きく寄与すると共に、消費、食生活の輪を広げ、お客様に来店の利便性、楽しさを実感していただいています。

「いい街、いい人、いい暮らし」をめざして一層努力を傾注してまいりますので、本年も宜しくご愛顧をお願い致します。

二十一世紀を目前に国内外を問わず、社会全体が大きく変革しています。

その流れの一つとして新農業基本法が本年三月頃、制定されます。

昨年の十二月八日に自民党において農政改革大綱が承認され、これらを基にして今農水省内で新農基法の案が具体化しつつあります。我々農業者はもとより、消費者にとっても有益な法律となることを願っています。

先に基本問題調査会の答申の前文にふれましたが、後文にもふれたいと思います。

現在は、人々の価値感や、生き方が大きく変わる、歴史的な転換期という基本認識があり、二十世紀の進歩と発展から、調和と共存、健康やくらしを優先する二十一世紀への転換が起こりつつあります。そして人々は「くらしといのち」の根幹に関わる食料とそれを支える農業、農村の価値の再認識と、その評価を高めねばならないと思っています。

二十一世紀は人口、食料、環境、エネルギー問題が避けて通れない大きな課題です。この課題解決のため、男性も女性も、高齢者も若者も互いに協力し合って、食料、農業、農村の活力ある未来を切り開くための努力が求められており、そしてその事が私たちの子供や孫に明るい未来と幸せを約束するための、国民的義務であると結んでいます。

前文といい、後文といい平易ではありませんが極めて格調高く、しっかりと将来を見据えています。

農業者も生産のための農業にとどまることなく、調和と共存という大きな命題のもと、個別経営でありながら、客観性、社会性などを兼ね備えた、公としての側面が求められます。これほど期待される産業は無く、間違いなく、二十一世紀は農業の時代です。本年もそれぞれの目標をめざし、大きく飛躍致しましょう。



新たなJAの 構築に向けて

北海道農業協同組合中央会

会長 藤野 貞雄



新年あけましておめでとうござい
ます。

平成十一年の新春を迎え希望に満
ちた年となりますようお祈り申し上
げます。昨年の本道農業の作柄は春
先の異常気象により生育の遅れが心
配されましたが、特に米については
質・量・一等米比率も高水準となる
など豊作となりました。また、他の
作物についても概ね平年作を確保す
ることができ全般的にはまずまずの
稔りの秋を迎えることが出来たとい
えますが、八月から九月にかけての
大雨、台風によりまして一部の地域
におきまして作物や施設に被害を生
じたことは誠に残念であり、被害を
受けた方々には心よりお見舞い申し
上げます。

さて、本道農業を巡る情勢は農畜
産物価格の低迷と景気悪化などによ
り農業所得が減少し、農家経済は厳
しい状況に直面しています。とりわ
け稲作農家は米価格の下落が続くと
いう、かつて経験したことのない状
況に見舞われ、また平成十二年から

始まるWTO次期交渉を睨んだ農政
対応を迫られるなど、先行き不透明
な中で激動する一年でありました。
本年はさらに本道農業を左右する大
事な年を迎えるといえます。一月に
は日本農業の持続的な発展方向と将
来を示す「新たな農業基本法」の制
定が行なわれます。専業地帯である
本道農業者が夢と希望をもって農業
経営に携わることができるよう、J
Aグループの総力を結集対応してま
いりたいと存じます。

近年、国民の健康や食の安全性に
対する関心が一層高まる中で、クリ
ーン農業の環境のもとで生産される
本道農業への期待はますます大きく
なっております。私達JAグループ
は第二十二回JA北海道大会におい
て『共生の大地「北海道」の構築に
向けて』『組合員・地域の期待と信
頼に應えるJA改革の実践』を決議
し、生産者と消費者、農業と他産業、
都市と農村が「共生」できる社会を
つくりあげるため、国民との合意づ
くりを努めています。

またJA改革は、規制緩和・市場
重視の時代にあつて自らの創意・工
夫とともに、一方で増大するリスク
も自らの判断と責任でコントロール
できる自己完結能力、自己責任能力
を有するJAへの改革を目指すこと
であります。そのためには、合併の
早期実現を中心として、人づくりの
推進、連合会の合理化・効率化によ
り経営基盤の強化に取組んでいく決
意を新たにすべく次第であります。

皆様にとって本年が明るい年であ
り、豊饒の秋を迎えることができま
すよう心から念願して新年のご挨拶
と致します。



「元気ある農業」を 持続発展させるために

中標津町農業協同組合参事 南出 昭広

明けましておめでとうございます。平成十一年の新春を、ご家族おそろいで迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

当組合にとって昨年は、創立五十周年の節目と同時に、組合員、地域住民待望の新型店舗（あるる）オープンという記念すべき年となりましたが、国内に於いては、相次ぐ金融破綻や金融不安に対し「公的管理」「公的資金の導入」など、新たな金融システム導入の年となり、道内では全国一の失業率や、新規採用人員の大巾な減少など苦難の一年となりました。

さて農業生産では、例年にない好天の春耕期から一転して、七、九月の不順な天気と、二度にわたる台風の大雨は、ほ場、農道の決壊や畑作物に冠水、湿害をもたらしましたが、十月の天候回復により馬鈴しょ、てん菜とも平年作を確保しました。生乳生産については、四月からの累計で前気比百六割と高い伸びを達成しており、組合員の皆様の毎日の努力

の賜であると同時に、当組合酪農の可能性の大きさを示しております。

初めて取入れた大根栽培については、生産指導、販売面での提携先の協力と、生産者の皆様の基本技術の実践励行もあり、計画を上回る実績となっております。道外市場からの期待もあり、第三の畑作物として、大いに飛躍をして欲しいものです。

一方、初生とくを始めとする個体販売は、大巾な価格値下げもあり、組勘上での販売額は前年と比べ、二億円程の減少となりました。

総体的な農業収支について、乳量の伸びに支えられ改善されているものの、乳質乳価の格差が依然として解消されていないケースもあり、基本的な飼養管理に基づく健康な牛づくりや、畜舎内外の環境衛生管理など実践を望むものです。

農協経営に於いては、各事業とも厳しさが予想される中、手数料など負担上げを承認戴きスタート致しましたが、桜ヶ丘給油所の日曜営業や十月十日オープン後の新Aコープ

の業績も順調であり、当初計画達成に向け努力をしております。

新店舗オープンに際し、「あるる」カードの発行枚数が六千枚を超え、新規の貯金口座開設も相当数に上るなど、地域住民に期待されるJ Aとして、更に幅の広い、事業展開を目指すべきと考えます。

でん粉工場の再編について、昨年末、検討会や生産者の皆様との協議を通して、平成十二年工場廃業を決定しました。昭和三十四年以来、四十七年移転新築の合理化でん粉工場事業は、当初の冷害や原料確保対策、他工場との競合問題、工場回収率や操業効果等々幾多の課題と困難さを当時の役員と生産者の間で、時には激論を交わし、工場メリットは生産者に還元するという今日の姿を築いてきました。しかし、将来のでん粉情勢を考えると、加工費負担が増大し生産者手取り価格が下がるのは必ずの状態であり、廃業という結論に達したものであります。馬鈴しょ、てん菜に大根を含めた新しい作物の導入と、

種子馬鈴しょなど販売増加を目指し、畑作全体の振興に取り組む考えです。

第四次地域農業振興計画は、平成十三年を目標年に、「なかしべつ新時代 魅力ある農村へ」をテーマに樹立しました。この期間中には、「新農業基本法」や、WTO次期農業交渉など、世界を見据えた我が国の農業政策が示されます。

農に関する者として思うことは、利用している農地から一定量の食糧生産をすることは、国民から負託された義務であり、また次代での安定的な食糧確保のため、地力の維持・向上、農地の保全を図ることも同様と考えます。将来の日本にとって正当な評価となる政策の樹立を望むものです。

経済不況の中、農業を核として、関連業種の集中や新規創出、それに伴う雇用拡大、付加価値生産を目指す産業クラスター構想が提唱されています。核となる「元気ある農業」を持続発展させるため、皆様と共に英知を結集し、本年に臨みたいものです。

最後に、組合員及びご家族の皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、農協事業へのさらなるご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

して



新たな生産システム の構築を

北根室地区農業改良普及センター

所 長 井 芹 靖彦



新春をお迎えし謹んでお慶び申し上げます。

平成十年度の地域農業は一部アクシデントにみまわれたものの、収量面では全ての作物で良好な結果を納める一方、主要生産物である生乳生産は十一月現在、前年比百六・三割と全道、管内を大幅に上回る伸びを示しています。

このような生産力を示す原動力は平成七年以降、新しい生産システムを地域ぐるみで導入し、生産基盤の強化を積極的に推進してきた結果であると考えられます。

他方、地域の課題として糞尿施設のおくれ、良質粗飼料の不足、購入粗飼料の増加、敷料の不足、労働の過重などが指摘されております。

二十一世紀は環境の世紀とも言われ、糞尿問題はさけて通れないものと考えられます。

このような背景もあり、これらに対応したシステムの導入が始まっております。当然、これらシステム導入の代償として費用の発生が伴います。費用回収率を高めるには、発想の転換が重要になります。

今、普及センターの実施している造成時、堆肥表層施用試験による堆肥施用の増収率は、チモシー初年目百三〇割、二年目百四〇割、アルファルファでは初年目二百割、二年目百二〇割と効果が確認されております。

地域酪農は地域特性を最大限に活用した、新たな生産システム構築が必要になると考えられます。

日本農業も戦後農政を大転換する農政改革大綱が決定され、大きく変革しようとしており、普及事業も皆様と共に努力したいと思っております。

委員会を設立し、今年四月に記念誌の発行及び記念式典を行なう予定です。

農協組織が結成され、農協青年部が創立された当時から、その時代ごとに受け継いできた、青年部としての役割と必要性をあらためて再認識するとともに、五十年という歴史の重さを深く感じさせられます。その

時代ごとに活動内容は違うものだと

新年明けましておめでとうございます。昨年はAコープ「あるる」のオープンや、環境整備運動、交通安全キャンペーンなど、例年にはない行事や事業があり、農協青年部として、充実した年だったと思います。各支部、青年部員の皆様にはその度、協力を頂き厚く感謝申し上げます。今年、中標津町農協青年部は創立五十周年を迎えます。五十周年実行



年頭にあたって

中標津町農協女性部
部長 横田 純子



農協の理解のもとに私達女性部も、昨年一年間いろいろな活動をして来ました。三級ヘルパーも四人新しく誕生しました。高齢化を迎え介護技術を知っている人達が身の廻りにふえるということは、心強いものがあります。もともととと取得者を増やしたいものです。

もう一つ環境ホルモン、先月にも書きましたが、ひとつひとつ出来る

事から女性も携さわっていかなければと思います。買物をするとき出る「発泡トレ」、大変ダイオキシンが出るからです。「あるる」で回収しているので、今すぐからでも協力し

て頂きたいと思っています。過ぎし年がどんな年であったにせよ今年も、今年こそはと思いい女性のパワーでまた一年頑張ります。

青年部の役割と 必要性を再認識

中標津町農協青年部
部長 板橋 匠

思いですが、基本的なところは、創立時から変わらぬものだと思います。今年度の事業も、残すところわずかですが、部員一人ひとりの協力を得て実施していきたいと思っております。で、よろしくお願いたします。

最後に、皆様にとって本年が明るい年でありませうと祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

新年あけましておめでとうございます。新しい年をご家族お揃いで迎えの事とお慶び申し上げます。

どんな世相のもとにあっても、新しい年を迎える事は気持ちが引締まるものです。新店舗も開店し、街に買い物に出るのも楽しさがふえました。女性にとって買い物をする事は、この上ない喜びであると物の本に書いてありました。第六感く七感を刺激するそうです。



兎年の仲間・大集合!



今年の干支は兎、12支の4番目です。兎年生まれの組合員皆さん140人の中から、1戸に2人以上の兎年生まれの方に登場していただきました。
今年も良い年でありますようご祈念申し上げます。

- ① 生年月日
- ② 今年の抱負



南武佐地区
佐藤幸一さん
① 昭和三十八年四月十五日
② 健康管理に気を配り、明るい年に。
佐藤美智子さん
① 昭和十四年七月三十日
② ケガ、事故がなく健康で良い年でありますように



西武佐地区
高橋正一さん
① 昭和三十八年八月二十二日
② 家族と友達と牛を大切にす一年にしたいです。
高橋百合さん
① 昭和三十八年十月五日
② 家族も子牛も健康でいられるように頑張ります。



豊岡地区
高橋敏行さん
① 昭和三十八年二月二日
② 常に明るく前向きに頑張る。
高橋絹子さん
① 昭和十四年十一月八日
② 笑いの絶えない明るい家族でありたい。



協和地区
高藤祐哉さん
① 昭和六十二年十二月二十七日
② 勉強・スポーツに頑張るぞ。
高藤広美さん
① 昭和三十八年三月一日
② 家族仲良く、健康で明るい年でありますように。

街頭で農業の大切さを、 多くの人々に伝える。



第47回全道JA青年部大会

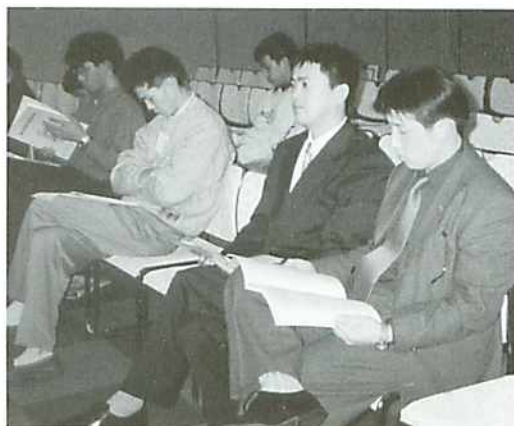
JA中標津青年部部長 板橋 匠

第四十七回全道JA青年部大会が、十二月三日、四日に札幌で行なわれました。当幌支部の西垣君、依橋支部の佐々木君と大会に参加してきました。

大会開会式の後、記念講演として「チャレンジ！」と題して、タレントであり、元野球選手でもあるパンチ佐藤氏の講演が始まりました。当日、誕生日だった彼のトークは、非常にテンポよく、彼の熱血野球人生、気くぼりのポイント、芸能界のウラ話など会場はとても盛り上がりました。

講演終了後は、分科会に分れ、第一分科会に参加しました。「人と自然に優しいクリーン農業の実践について」というテーマでしたが、主に畑作中心の分科会で、土壌改良や、堆肥の有効利用について、多少参考になりました。

翌日の大会では、各地区代表の実績発表と意見発表が行なわれ、その



後、街頭行動として、我々青年部は農業の大切さを広く、多くの人に伝えるため、札幌の北口駅でポケットティッシュと、メッセージの入ったピラ配りを行ないました。当日は非常に寒く、手がかじかみましたが、無事、全日程を終え、充実した大会だったと思います。

大会に参加された部員の皆様、大会運営された役員の皆様、本当にご苦労様でした。

皆様の意見を 充分検討し、提案します。



平成十年十二月一日から三日までの日程で、地区別懇談会を実施し、皆様の意見をお聞きしました。説明した議題は、十月末農協事業の概況、同クミカン状況、Aコープ

新店舗の建設経過、農協手数料、補助事業導入に関する負担及び賦課金、その他（でん粉工場再編に関する件、草地整備事業の進め方）でした。購買事業では、新Aコープの実績

と合わせ供給高で前年と比べ、二億八千万円の増となり、販売事業では乳代三億三千万円の増、個体販売は価格下落により一億五千万円の減、農産品はでん粉及び新規栽培の大根を合わせ一億八千万円の増と、販売全体では、三億六千万円増となりました。金融事業では、貯金が前年に比べ八億円の伸びとなり、新Aコープ「あるる」開店の相乗効果と、金融機関としての信頼の増加が反映されたものと思われます。クミカン状況については、前年と比べ大きく好転していますが、月末休日に伴う資金決済日のずれ込みや、でん粉精算方式の変更などもあり残高調整を必要としますが、個体販売の減少分を乳量の増加で補う傾向となっております。また、乳代の伸びと飼料費の伸びから、飼料効率の向上が達成されています。

Aコープの建設経過では、建物など固定資産の取得と店舗機器などリース契約総額が、当初計画に沿った結果となった旨説明をしました。農協手数料、補助事業導入に関する負担及び賦課金については、第五



中標津地区での懇談会

十一回農協総会で審議戴いた農協中長期計画に関するもので、平成十一年以降の料率及び賦課金の賦課方法などについて、改めて提案し、意見をお聞きしました。この件については、懇談会での皆様の意見を理事会などにて充分検討し、事業計画策定のための懇談会に、改めて提案したいと存じます。
師走となり何かとご多忙の中お集まり戴き誠にありがとうございました。



丸田牧場で開かれた除幕式

企画から2年、 農場看板整備を完了しました。

酪対開陽支部

酪対開陽支部(会長・鈴木修氏)は、昨年十一月下旬、会員二十五戸に農場看板を設置しました。

シーズンには観光客で賑わう開陽地区だけに、「農場環境整備、農場看板の設置を」という声も早くから聞かれ、今回の設置となりました。

看板の図案は、地元小・中学校と連携して原案を募り、中学生・浜田君がデザインしたものをアレンジした



組合員さんの協力で看板設置

ものです。図案の本決定までは、「牛がゴリラに見える」、「牛が弱々しい」などという意見もあり、幾度も改案しました。結局、中本信幸氏が持つて来たかわいい図案を基にして使うことになり、最終的に黄色い大地(緑にすると周辺の木々と調和し目立たないので)、北海道の中央に牛を配置し、脇に輝く真つ赤な星は、「中標津・開陽」を示し、「ほしの里かいよう」を全国にアピールできるものに仕上がったのです。

看板設置完了に先駆け行なわれた、丸田牧場での除幕式も多数の参加者で盛り上がり、開陽の結束力を確認するものになりました。また、環境美化への取り組みを継続するものとして、今年にはヒマワリの種の配付を計画しています。

設置後、日が経ったのでご覧になられた方も多いのでは—と思います。が、反射材を使用しているので、夜間には昼間とまた違った顔を覗かせてくれるはず。ライトアップされた看板は、もしかすると真紅の星が輝いているかもしれません。

こうして無事完了した看板設置は、何度も会議を開いた役員各氏、埋め戻しを手伝った組合員さんの協力もさることながら、北根室地区農業改良普及所の福井普及員、看板請負業者の㈱クレアなどの熱心な支援があったためであり、ご協力に感謝いたします。

酪農家の
みなさん

おトクな電気料金メニューができました!

低圧電力も契約メニューを見直してみませんか!

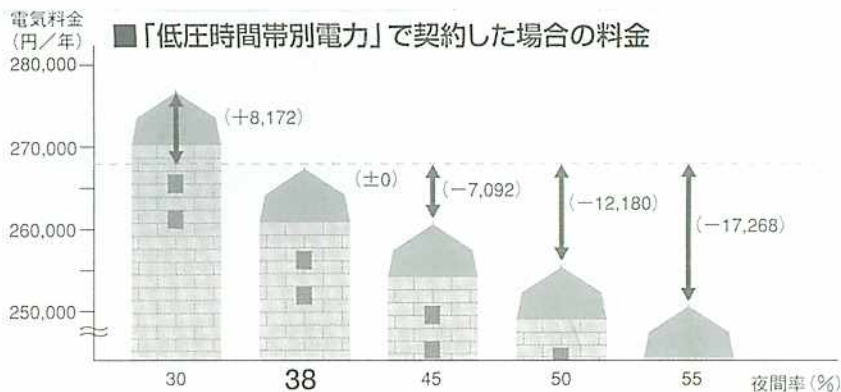
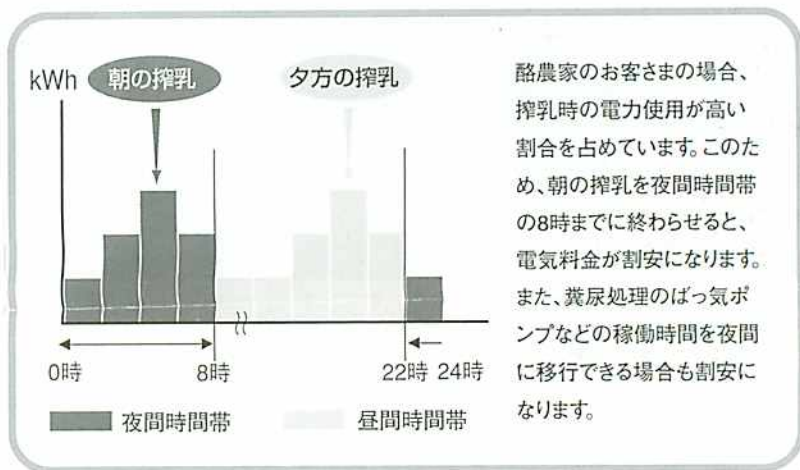
北海道電力では、平成10年4月より低圧電力でご契約いただいている酪農家のみなさまにご契約いただける「低圧時間帯別電力」という、新しい料金メニューができました。

この契約は、1日に使う電気を夜間と昼間に分けて夜間（22時～8時）の単価を安く、昼間（8時～22時）の単価を若干高く設定したものです。これにより、1日の使用電力量のうち夜間時間帯（22時～8時）に使用される電力量の割合（夜間率）が38%を越えると従来の低圧電力契約より電気料金が安くなる仕組みになっています。

また、氷蓄熱式バルククーラーや電気温水器などの蓄熱機器を設置することにより、夜間率を高くすることができるとともに、蓄熱調整契約などのお得なメニューにも合わせてご加入いただけます。

そのほか低圧電力の場合、お客さまが通常ご使用になる最大の定格電流値に基づいて契約容量（電力）を決定する「主開閉器契約」でご契約いただくと、負荷設備の総容量により契約容量を決定していた「負荷設備契約」と比べ、一般的に契約容量を小さくすることができ、毎月の電気料金を削減できます。

電気料金に関するお問い合わせは、お近くのほくでんまで。



※ () 内の数値は、従来の「低圧電力」との比較です。
 ※ 上記の電気料金は●契約電力8kW●力率90%●年間使用電力量14,400kWhの場合で算定しました。

●受付窓口

北海道電力株式会社中標津営業所お客様センターまで

☎01537-2-2010

でん原馬鈴しょ品種比較試験成績を学ぶ。

馬鈴しょ栽培技術講習会



十二月十一日、中標津保養所温泉において、中標津町農協馬鈴しょ振興対策協議会主催の馬鈴しょ栽培技術講習会が開催され、北根室地区農業改良普及センターの鈴木調整主査・富沢普及員を講師に招き、会員十五人の出席により、学びと交流会が行なわれました。

講習会では、でん原馬鈴しょ品種比較試験成績について、富沢普及員から報告があり、十月一日調査では、でん粉価の高いサクラフブキが最も高く、コナフブキ、アスタルテはでん粉収量はサクラフブキに比べ少な

いですが、でん粉収量の伸びは大きく期待されます。また、ベニアカリの伸びの期待は少ない。シストセンチュウ抵抗性品種では晩生から極晩生が多いため、でん粉価が高くても収量増が見込めません。そのために用途が異なる品種であっても、導入を試みて欲しいと強調していました。また新品種についても、アーリースターチは中晩生で粉原料系統で、早期収穫が可能で、シスト線虫抵抗性を持ち、今後期待の持てる品種と言えます。

最後に鈴木調整主査からライ麦の試験成績について、敷料用えん麦と比較を交えながら説明を受けました。講習会終了後は、昼食をとりなが



ら馬鈴しょ談義に花を咲かし、有意義な一日でした。

心のこもったやさしい介護を。



声をかけながら洗髪します

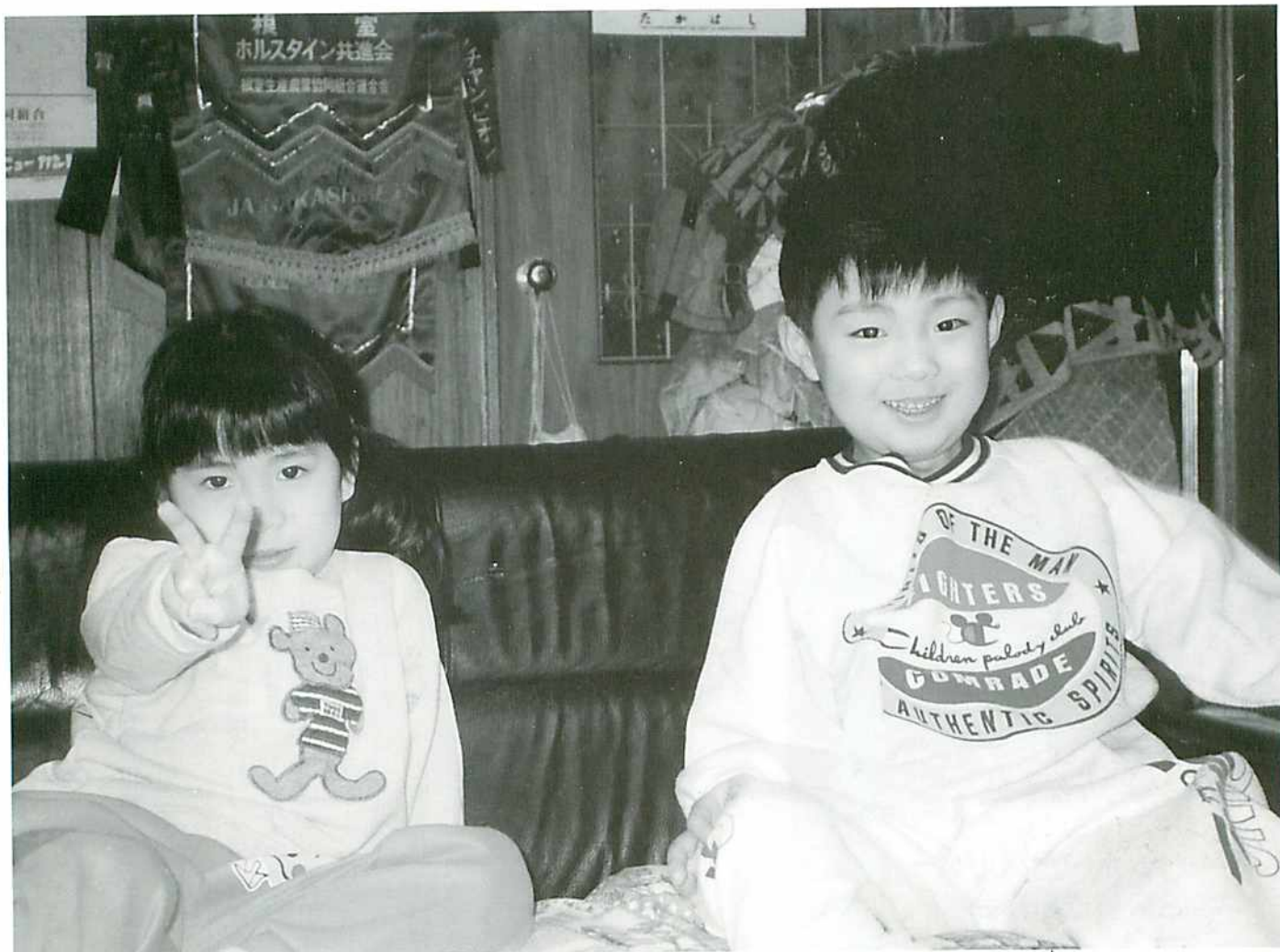
JAホームヘルパー3級養成研修会



なさん 藤野さん
いたみ 斎藤さん
頂い 花川さん
書を 野さん
証か 左
修了 上

農村地域の高齢化が急速に進むなか、JAが地域における助けあい活動の拠点としての組織化を図るため、JA女性部員・JA職員およびその家族を対象にJAホームヘルパー3級養成研修会が開催され、根室管内JAより二十六人が受講しました。十月二十日から十一月四日までの

日程で講義、実技、実習合わせて五十時間を消化するハードなスケジュールのなか、当JAからも四人が受講しました。グループで行なう実技講習では、一人が実験台になり、寝返りのさせ方や洗髪のしかた、体のふきかたなどを実際に行ないました。洗髪はベッドに寝たまま行なう方法を実習し、家にある用具で行ない、受講者も真剣に取り組んでいました。また、ホームヘルプサービスの同行訪問でお宅に伺い、家事援助や食事のお世話を行ないました。受講者の皆さんは「家族の理解や協力のおかげで、この研修会を受講できました。この知識を家族や地域の人達のために活用したい」と話していました。



ちょっぴり照れくさそうにピース

たまあくにケンカもする なかよし元気っ子の二人。

北進地区 川村尊之・早苗さんご夫妻

長男 悠吾くん(六歳)・次女鈴夏ちゃん(四歳)

あけましておめでとうございます。今年も「わが家の人気者」どんどんご紹介していきますので、取材の際はご協力をお願いいたします。

今年、最初にご紹介するのは、川村尊之さん宅の長男・悠吾くんと次女の鈴夏ちゃん。四人兄弟の二人は、ちょっぴりはずかしがりやの様子。悠吾くんは、お母さんの影にかくれてはずかしそうにニッコリと笑います。「写真とらせてね」と言うと二人でニッコリ、ポーズを決めてくれました。鈴夏ちゃんは、今年生まれたばかりの妹・里花ちゃんがかわいくてしかたない様子。「ほったをびつたりとくっつけて、はなさないのよ」と笑って話すお母さんの早苗さん。鈴夏ちゃんは立派なお姉さんぶりを発揮していました。

二人に大存物は？と聞くと鈴夏ちゃんは「リンゴ」、悠吾くんも「リンゴ」ととっても息の合う二人。たまにはけんかもする元気っ子な二人に

大きくなったら何になるの？と聞くと、悠吾くんは「大きなブルドーザーに乗れる人、鈴夏ちゃんは看護婦さんになりたい」とうれしそうに話す二人。これからも四人兄弟、仲良くすこやかに大きくなあれ。

わが家の
人気者

もしも のとき大切なご家族を “一時金+年金” で守る確かな 愛のかたち です。



■おすすめのご契約 **愛のかたち** で生活資金を。

家族が暮らしていくための生活費って、 どれくらい必要なのだろうか。

万一のとき、残されたご家族には月々どれくらいの金額が必要でしょうか。総務庁の調査によると月々の日常生活費には、右図の程度の額が必要になっています。安心して暮らしていくための目安として、考えておく必要があります。

勤労者世帯主年代別1カ月の消費支出額

25～29歳	約26.8万円
30～34歳	約29.2万円
35～39歳	約31.6万円
40～44歳	約35.6万円
45～49歳	約40.9万円
50～54歳	約40.3万円

総務庁 平成8年「生活調査年報」

■現在のご契約で緊急資金を。

緊急資金はどれくらい 必要なのだろうか。

万一の場合には、葬儀費用はもちろんのこと、相続税対策やローンの返済など、まとまった額の緊急資金が必要になってきます。また、お子さまの入学や結婚費用などでも、あわてずにすむために、一時金の備えが重要な役割をはたします。

葬儀にかかった費用
(平成7年 日本消費者協会調べ)

203.9万円 (全国の平均額)

平均負債額

(平成8年 貯蓄広報中央委員会調べ)

498万円 (アンケート全国世帯平均)

大学入学金、授業料
(平成6年 文部省調べ)

国立 約71.8万円 私立 約121.8万円

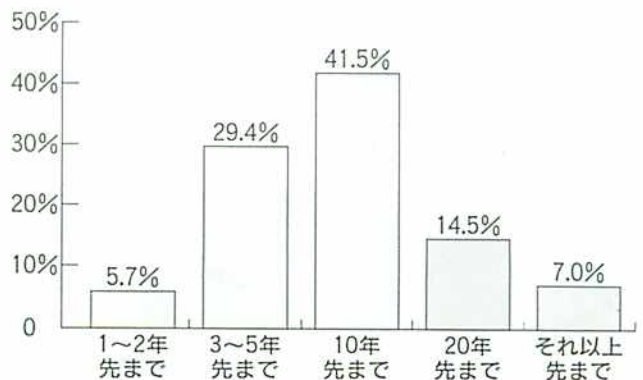
なぜ、この「愛のかたち」が登場したのか？ それは、お客さまの声を聞いたからです。

■死亡保険金の使い道 (複数回答)

- 遺族の日常生活資金……48%
- 葬儀費用……45%
- 配偶者の老後資金……38%
- 子供の教育・結婚資金……35%
- 債務の清算金……5%

(生命保険文化センター「生活保障に関する調査」H6)

■生活設計を立てている世帯の計画期間



「貯蓄に関する世論調査」より

ですから

現在のご契約

万一の時に
受け取れる

一時金

+

おすすめのご契約

以後、毎年
受け取れる

年金

この組み合わせがぴったりなんです！

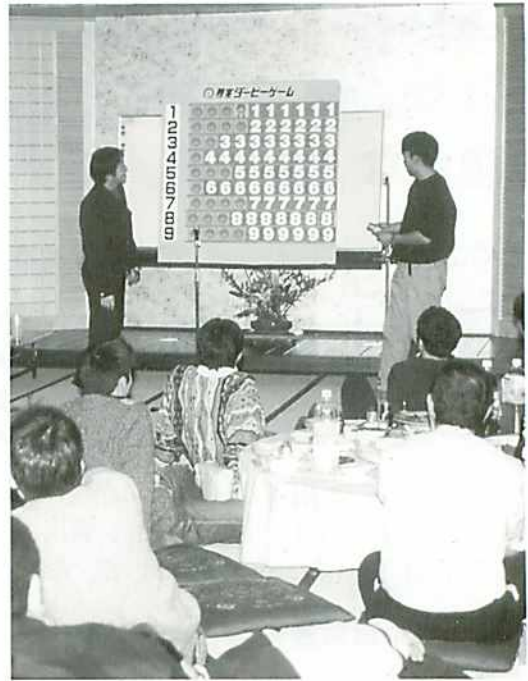
事業の反省と来年の抱負を話し合いました。

農協青年部反省会 青年部副部長 志賀 章

農協青年部反省会が十二月十日、寿宴を会場に開催され、今年の実業の反省と新しい年へ向けての抱負を、各テーブルごと話し合われました。

当日は、他の反省会と重なった事もあり、例年より参加者が少なかつたように思いましたが、板橋部長の挨拶の後、一年を振り返っての話しやビンゴゲーム、ダービーゲーム、ビールの早飲みなど楽しいひとときを過ごしました。

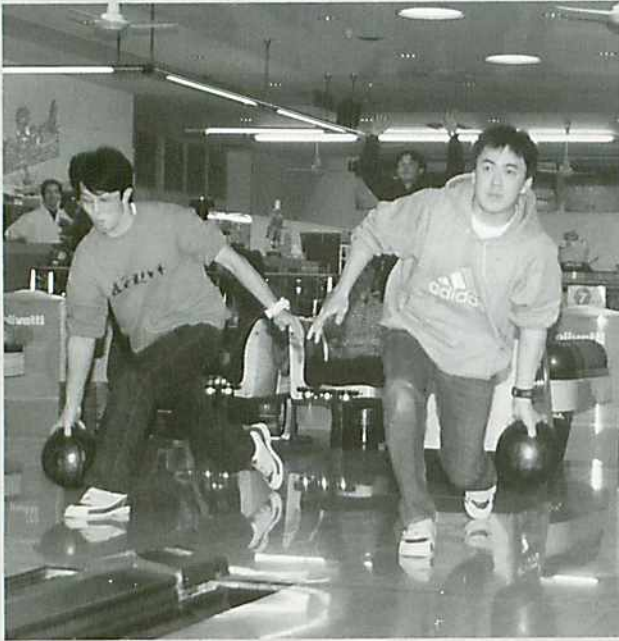
今年度の事業も残りわずかとなりましたが、部員一人ひとりを力を含め頑張ってください。



盛り上がったダービーゲーム

2年ぶり優勝に輝く

根室地区JA青年部スポーツ交流会



根室地区JA青年部スポーツ交流会が十二月十五日、中標津町ウコウボウルで開催されました。

この交流会は、管内の青年部盟友を一堂に会し、各単組間並びに盟友間の親睦をはかり、今後のJA青年部事業の活性化をはかる目的で開催されています。

当日は、管内から六単組十四チーム四十二人が参加し、一ゲーム三人の団体戦が行なわれ、JA中標津青年部から二チームが参加し、Bチームが二年ぶりの優勝を飾り、Aチームも三位に入る好成績を納めました。



優勝Bチーム(左から佐々木氏、山下氏、土井上氏)



ビールの早飲み、敗者には罰ゲームが……

クリスマスアレンジに挑戦。

十二月十一日と二十五日に、女性部華道教室が開催されました。人気の高いこの教室ですが、今年は未生流の小崎トミエ先生を講師に招き、参加者約二十人が集まりました。

お正月用の生け花にチャレンジしました。クリスマスの生け花は、松とびばを使い、オアシスに生けました。「のびのびと生けて下さいね」とやさしいご指導の小崎先生。約二時間かけて立派な生け花を完成させました。



小崎先生のていねいなご指導で行なわれました



編集後記

新年あけましておめでとございます。

組合員皆様におかれましては、新年をご家族お揃いでお過ごしのことと思います。

昨年は中標津町内で交通事故が多発し、尊い人命が失われました。一月はお酒を飲む機会が多いと思われる、くれぐれも「飲酒運転をしない、させない」よう心がけ、改めて交通安全に努め事故のないようお願い致します。

また、風邪などひかぬよう健康管理に努めて下さい。

本年は皆様にとって良い年でありますようお祈り申し上げます。

12月の組合日誌

- 1日 地区別懇談会（中標津・俵橋）
営農計画書作成～22日まで
- 2日 地区別懇談会（開陽・当幌）
- 3日 地区別懇談会（第二俣落、西竹・武佐・俣落）
- 8日 てん菜振興会役員会
- 10日 馬鈴しょ振興会役員会
- 14日 第3回酪対役員会
- 15日 第4回管理購買委員会
- 16日 畑作対策役員会
- 17日 生食加工馬鈴しょ役員会
乳牛改良同志会役員会
青年部50周年編纂委員会
- 18日 役職員忘年会
- 28日 第9回理事会
- 30日 業務納め





雑煮と もち料理

元旦にお雑煮を食べるのは、その昔、大みそかに
神さまに供えたもちや野菜などを元旦にさげ、煮
て食べたのが始まりとされています。

地方や家によりさまざまなお雑煮があるのは、供
えたものの違いからだろうといわれています。な
にはともあれ、「故郷のお雑煮」を食べないと正
月を迎えた気分がしない、というわけで、元旦は
夫の家に伝わるもの、二日目は妻の家のものを味
わう家庭が多いとか……。